

民衆本『狐ライナールト』の独自性を巡る考察

檜 枝 陽 一 郎

0. 問題の所在

15世紀末から16世紀にかけて、狐のライナールトを巡る物語は、印刷術の発達とともにヨーロッパ各地に伝播していった。印刷業者のヘラールト・レーウが1479年にオランダのゴータで印行した『狐ライナールト物語』がその出発点である。はじめてこの物語では見出しが設けられて、本文は従来の韻文から散文へと変更されている。見出しの設定や散文化は、物語の序にも記されているように、まだ本を読むことに慣れていなかった不特定多数の読者に対して、本文の内容をより理解しやすくするための工夫であった。物語は、1485年にデルフトの印刷業者であったヤコブ・ヤコプスゾーン・ファン・デアメーア Jacob Jacobszoon van der Meer によって復刻されて同じタイトルで刊行された。内容的には、先行するレーウ版と同一であるものの、様々な単語の綴りが変更されており、ファン・デアメーア自身が新たに組んだ版であるのがわかる。当時は著作権というものが明確ではなく、勝手に他人の版を組み直して販売することも可能であった。

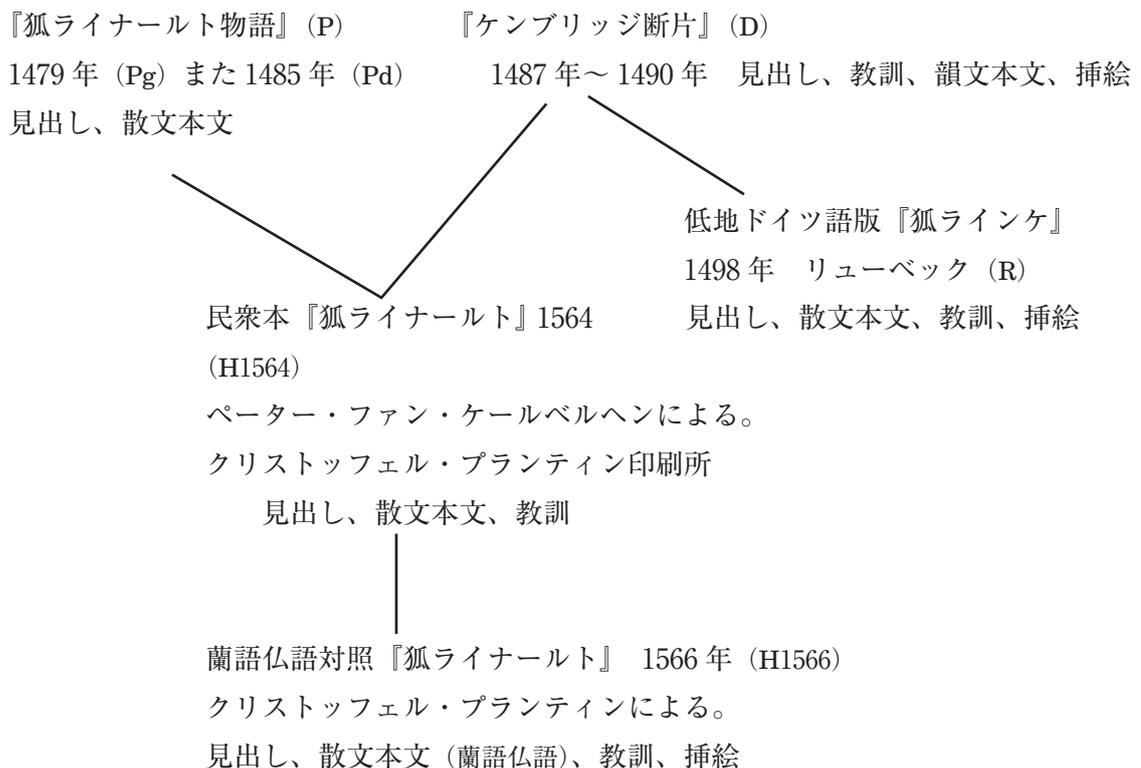
レーウはその後1484年夏に当時ヨーロッパ有数の国際商業都市であったアントウェルペンに転居して印刷出版業を続けた。その地で今度は韻文によるライナールトを巡る物語を印行している。この物語は七葉の断片が現存するだけで、『ケンブリッジ断片』ないし『クレマン断片』と呼ばれている。七葉しか残っていないとはいえ、注目すべきなのは、かつてユトレヒトの検事総長であったヒンレク・ファン・アルクメルがこれに注釈を加え、また、いわゆるハーレムの師と称される版画家が挿絵を描いたことである。この注釈と挿絵はその後の伝承に大きな影響を与えた。『ケンブリッジ断片』は、使用されている書体の研究から、アントウェルペンのヘラールト・レーウ印刷所において1487年8月2日から1490年9月1日までに成立したと想定されており、この成立時期の推定は研究史において承認されている¹⁾。

『ケンブリッジ断片』以降、オランダやベルギーにおいてライナールトを巡る物語が次に出現するのはようやく1564年になってからで、1490年から計算しても70余年の空白期間があり、これは他国の伝承と比べるとあまりに長い期間だとの印象を受ける²⁾。たとえばイギリスでは、1481年にウィリアム・キャクストンによって1479年のレーウ版『狐ライナールト物語』をもとに英訳された『狐レナード物語』を皮切りに、1489年には同じキャクストンによる再版、1500年にはリチャード・ピンソン Richard Pynson によるもう一つの再版、1515年頃にウィンキン・デ・ウォルデ Wynkyn de Worde による物語が、1550年にもトーマス・ゴルチェ Thomas Gaultier による版が出版されている³⁾。同様にドイツでも、『ケンブリッジ断片』を直接の典拠とする『狐ラインケ』が1498年にリュエバックで出版され、その後ロストック版が1517年および1539年、1549年に出版され、フランクフルトにおいても1550年に高地ドイツ語による『狐ラインケ』が出版された⁴⁾。

しかしオランダないしベルギーにおいても1564年以降になると狐の物語は活発に出版されるよう

になる。まずアントウェルペンの書籍商また印刷業者であったペーター・ファン・ケールベルヘン Peeter van Keerberghen が 1564 年に、印刷業者のクリストッフエル・プランティン Christopher Plantin に活字を組んでもらい、いわゆる民衆本『狐ライナールト』を刊行した⁵⁾。その 2 年後、今度はプランティン自身が蘭語仏語対照の『狐ライナールト』を印行している。前者には挿絵がなく、後者には、前述したハーレムの師による挿絵とはまったく異なる、プランティン自身がパリに発注した挿絵が添えられている。プランティンが印刷した民衆本『狐ライナールト』は 1570 年にローマカトリック教会による禁書目録に加えられ、発禁となったものの、発禁処分を逃れたプロテスタントが主流の北部すなわちオランダでは 1589 年のデルフトのブライン・ハルマンズ・スピンケル Bruyn Harmansz Schinckel 版いらい 1795 年までに 11 版が出版された。他方、発禁処分にかかった南部すなわちベルギーではやや再刊行が遅れて次の版は 1614 年に出版された。しかしその後は 19 世紀末までに 18 版を数えている⁶⁾。北部民衆本（研究上の略号は Hn）および南部民衆本（同 Hz）には、ハーレムの師による挿絵に遡る挿絵が組み込まれており、図像は同じ系譜上にある。

以上の様々な関係を図に表すと、以下ようになる⁷⁾。括弧内のアルファベットは各作品の研究史上の呼称である。



低地ドイツ語版『狐ラインケ』(R)は本論とは直接関係しないのでひとまず措くとして、上図における民衆本『狐ライナールト』(H1564)の体裁を比較検討すると、見出しは『狐ライナールト物語』および『ケンブリッジ断片』と共通しており、その一方で散文による本文は『狐ライナールト物語』(Pg, Pd)に由来するのが判明する。教訓は『ケンブリッジ断片』(D)および民衆本『狐ライナールト』に見られる。民衆本『狐ライナールト』とそれに先行する両作品の関係は、研究史において以下の記述が代表的なものである⁸⁾。「この体裁は、1487年ごろにアントウェルペンのヘラルト・レーウの元で刊行された、七葉しか残っていない韻文揺籃本Dをつよく想起させる。実際、仔

細に比較すると H への D の影響が示されよう。しかし影響は序および教訓、見出しといった『外縁部』に限定的である。本来の散文による本文は、1479 年にゴータで、そして 1485 年にデルフトで印刷された散文版 P に遡る。」こうした見方は、民衆本『狐ライナールト』を先行する両作品との関連で捉えようとするもので、一面では正しい。しかし、民衆本『狐ライナールト』が独自に改編した箇所を見落としている。したがって本論は、民衆本『狐ライナールト』の独自性あるいは自立性という視点からこの物語をもう一度捉え直すことを目的とする。

1. 見出しと教訓の比較

まず『ケンブリッジ断片』の現存する七葉の部分を手掛かりにしながら、見出しと教訓について比較検討する。『ケンブリッジ断片』の残存部分は、途中で欠落している箇所も含めて韻文写本である『ライナールト物語』の第 1513～1890 行に相当する⁹⁾。これはまた散文の『狐ライナールト物語』第 12 章の途中から第 14 章の見出しまでに当たる¹⁰⁾。他方、民衆本『狐ライナールト』でこの部分に該当するのは、第 17 章から第 23 章の見出しまでである。それを表に記すと以下のようになる。

『狐ライナールト物語』1479 年	『ケンブリッジ断片』1487～90 年	民衆本『狐ライナールト』1564 年
第 12 章「ライナールトが懺悔した次第」の途中	本来あるはずの見出し欠落。 一部の教訓が残る(1)	第 17 章ライナールトは懺悔を続けて、どのように狼を騙したかを告白する
第 12 章途中	①	第 18 章ライナールトがどのようにイセグリムをもう一つ別の災難に遭わせたかを語る
第 12 章途中	第 [20 章] ライナールトが懺悔を [語り続けて]、それから終えた次第。そして [グリム] バールトとともに宮廷へ向かった次第、そして [さらに何が] その途中で起こったか ¹¹⁾	第 19 章ライナールトの懺悔を聴いたグリムバールトが彼に懲罰を科して赦免する
第 12 章途中	②	第 20 章グリムバールトとラインケンと一緒に宮廷に向かうものの、その途中ラインケンは普段の生き方をなかなか止められません
第 13 章ライナールトが宮廷に参上した次第、そして王様の御前で弁明した次第	第 22 章ライナールトが王様の御前に参上して恭しく跪き、誰もが自分を訴えていることがわかった次第	第 21 章ライナールトが王様の御前へ参上して恭しく挨拶をして、誰もが自分を訴えているのを察知する
第 13 章途中	第 23 章ライナールトが訴えられている極悪非道の所業について、王様が彼をきわめて無慈悲にかつ厳しく問い詰めた次第、またライナールトが再度できる限りの自己弁護を行った次第 一部の教訓が残る(2)	第 21 章途中
第 14 章ライナールトが逮捕されて死刑を言い渡された次第	第 24 章王様が審理をおこない、ライナールトを逮捕して絞首刑に処すべしとの判決を下した次第	第 23 章 ¹²⁾ 王様がライナールトを逮捕して木に吊って絞首にすべしと判決を下す

まず、『狐ライナールト物語』の第 12 章「ライナールトが懺悔した次第」の途中で、『ケンブリッジ断片』および民衆本『狐ライナールト』では新しい章が立っているのがわかる。後者の場合は「ラ

イナールトは懺悔を続けて、どのように狼を騙したかを告白する」という見出しのある第17章が始まり、前者では見出しが欠落しているものの、一部の教訓が残っており、この部分に新たな章があったと判断できる。『ケンブリッジ断片』では見出しと教訓がセットになっているからである。

『狐ライナールト物語』の第12章は途中からであるものの、この章は民衆本『狐ライナールト』では四つの章に細分化されている。『ケンブリッジ断片』には①および②の欠落部分があるので、ここに見出しがあったのか不明であるものの、第20章が真ん中にあるのを考慮すると、やはり①および②の部分には見出しがあったと考えるのが適当である。したがってその意味では、前述した引用に指摘された通り、見出しについては民衆本『狐ライナールト』は『ケンブリッジ断片』に従ったと言えよう。ところが、『ケンブリッジ断片』は第22章と第23章の2章に分けているのに対して、民衆本『狐ライナールト』では『狐ライナールト物語』のように一つの章のままであり、細分化していない。したがって、民衆本『狐ライナールト』は必ずしも『ケンブリッジ断片』の見出しの構成を採用しているわけではなく、変更の自由をもっていたという点は両者の関係を考えるうえで重要である。

同様のことは教訓についても指摘できる。教訓は『ケンブリッジ断片』に二つだけ見られ、いずれも一部しか残っていない¹³⁾。上表で「一部の教訓が残る(1)」および「一部の教訓が残る(2)」とある部分がそれで、その詳細は以下の通りである。

一部の教訓(1)¹⁴⁾

「ここでは欲張りな宮廷人に対して、再び出られないような穴に入らないように、あまり蓄財に走るべきではないと教えています。それはここで狼を通して明らかにされました。なぜなら、よほど腹一杯に食べてしまったので入り込んだ穴から再び出られなくなったからです。さらに悪党たちは殿方やご婦人らを欺くことがここに示されています。」 (...wert alhier den ghierighen houelinck gheleert dat hij soe vele niet rapen en sal/dat hi mids dien niet en come in soedanighen gate daer hij niet weder wt comen en kan/twelck alhier oe k¹⁵⁾ byden wolf beteykent wert want hij sinen buyck soe vol ghegheten hadde dat hij niet weder wt den gate ghecomen en konde aldaer hij in ghecropen¹⁶⁾ was Hier wert oeck ghehoent dat die schalcken bedrieghen heeren ende vrouwen.)

民衆本『狐ライナールト』第17章の教訓

「鐘を引っぱろうとした狼のように、誰も自分の役目でないことをあえてするには及びません。また欲張りな宮廷人に対して、簡単には脱出できないような窮地に陥らないように、あまり蓄財に走るべきではないというのがこの章の教えです。」 (...Niemant en behoort hem tondervvinden te doene, tghene dat sijn officie niet en is: gelijk de Wolf die de clocken vvilde trecken. Ooc vvort hier de ghierighen houelinck gheleert, dat hy niet soo veel en rape, dat hijer door een alsulcken last en come, daermen niet lichtelijck vvt gheraken en can.)¹⁷⁾

冒頭の下線部にある「ここでは欲張りな宮廷人に対して、再び出られないような穴に入らないように、あまり蓄財に走るべきではないと教えています。」という箇所は明らかに民衆本の「また欲張りな宮廷人に対して、簡単には脱出できないような窮地に陥らないように、あまり蓄財に走るべきではないというのがこの章の教えです。」と関連している。その一方で、後半にある二重下線部の

「さらに悪党たちは殿方やご婦人らを欺くことがここに示されています。」という部分は民衆本で削除されている。

一部の教訓(2)

一部の教訓(2)は、前回の論文で翻訳不能とした部分で、その原文は「...enichte vanden claghers voerder be/...vijl gheuangen」とある（スラッシュは改行を示す）¹⁸⁾。「vanden claghers voerder」はおおよそ「原告たちによって先に」、「gheuangen」は「捕らえられた」を意味すると思われるものの、他は不明である。そして『ケンブリッジ断片』との対応関係から民衆本『狐ライナールト』には第21章の末尾に何らかの教訓があるべきであるのに、対応する箇所が見当たらない。民衆本では『ケンブリッジ断片』の第23章が丸ごと削除されているので、それに付随する教訓も削除されたと考えるのが適当である。

このように、『ケンブリッジ断片』と民衆本『狐ライナールト』の見出しおよび教訓を比較すると、民衆本において削除また修正が行われており、単純に『ケンブリッジ断片』をそのまま継承したとは言えない。したがって民衆本『狐ライナールト』を正しく評価するには、過去に研究で行われたような類縁関係の類推ではなく¹⁹⁾、民衆本それ自体を16世紀中葉の時代背景とともに考察する必要がある。

2. ペーター・ファン・ケールベルヘンとその活動

民衆本『狐ライナールト』を刊行したペーター・ファン・ケールベルヘン Peeter van Keerberghen は1530年頃に生まれた。印刷業との関わりで初期の記録として、1552年11月8日付けでブラバントの会計検査院による印紙税収入記録に「ジャコミンヌ・バール Jacomyne Bars とその使用人ペーター・ケールベルヘンに1552年11月8日付けで印刷許可証」との記述がある²⁰⁾。ジャコミンヌ・バールは、ケールベルヘンが共に働いていたヘインドリック・ペーターセン Heyndrick Peetersen の未亡人である。印刷業者の死後、その未亡人が跡を継いで事業を継続することはよくあった。実際に公文書に認証が押されたのは同年の11月12日であった。1546年以降、本を印刷したり販売したりするには事前に当局の許可が必要となり、その許可証はいわば印紙税を支払って得る必要があった。それによる収入が印紙税収入となったわけである²¹⁾。ケールベルヘンは1555年にアントウェルペンの市民となり、1557年に画家や印刷業者、書籍商、活字鋳造工などのギルドである聖ルーカスギルドに書籍商として登録された²²⁾。

また、コルネリス・ファン・デン・ケルクホーヴェ (Cornelis van den Kerckhove 1518年生まれ、1563年まで活動した)²³⁾ がペーター・ファン・ケールベルヘンとともにアントウェルペンで印刷したとされるフランス王フランソワ2世の公開書簡がプランティン・モレトゥス博物館に2通残されている。1通は、全国議会を来たる12月10日にメオー (Meaux) で開催予定であるとして、様々な長官 (Prouoosten、仏語の prévôt に対応する) および代官 (Bailliuwen、仏語の bailli に相当する)、郡長 (drossaten、語源的には独語の Truchsess に相当する) にフランソワ2世が参集を呼びかけた書簡である²⁴⁾。書簡の日付は1560年8月30日となっている²⁵⁾。もう1通はやはりフランソワ2世が教会の司教やその他の高位聖職者に対して、来たる1月20日にパリで行う全国協議に参加するように呼び

かけたもので、1560年9月10日の日付となっている²⁶⁾。両書簡ではコルネリス・ファン・デン・ケルクホーヴェの名前が最初にあるので²⁷⁾、共同印刷はファン・デン・ケルクホーヴェが主導したと想定されている。ケールベルヘンは上司の下で働くのが普通であったと、その理由が挙げられ、前述したジャコミンヌ・バルとその使用人という関係が引用されている²⁸⁾。

これを見ると、ケールベルヘンは当初は雇われの印刷工であったらしい。ただし、聖ルーカスギルドへの登録は書籍商となっており、確かにケールベルヘンはアントウェルペン市内に二つの書店を所有していた²⁹⁾。いずれにしても、刊行年の記されているケールベルヘンが印刷した書籍は1560年のものが最初で、それが最後になる1569年まで、刊行年の記載のない8作品を含めて全部で45の書籍が確認されている³⁰⁾。その内の一つが1564年に刊行された民衆本『狐ライナールト』である。以下、ケールベルヘンが1564年前後に刊行した、本論の興味にかかる作品を挙げながら、民衆本『狐ライナールト』とそれ以外の書籍との関係を以下に示したい。とくにロベール・グランジョンが1557年に発案した書体であるシヴィリテ書体で刊行されたものを挙げ、必ずしも当時刊行されたケールベルヘンの全書籍を列挙したわけではない³¹⁾。

刊行年	印刷者	書名	書体	種別	番号
1557	Granjon	『生と死の対話 Dialogue de la vie et de la mort』 ³²⁾	civilité	A1	No.1
1558	Plantin	『児童のためのABCあるいはキリスト教教育』 L'ABC ou instruction chrestienne pour les petits enfants	civilité	A1	No.2
ペーター・ファン・ケールベルヘン					
1561	by Plantin	『十二族長の遺訓 Testamenten der XII patriarchen』 ³³⁾	civilité p. ital. ³⁴⁾	記載なし	
1563	by Tavernier	Gabriel Meurier, Communications familiares ³⁵⁾	civilité ³⁶⁾	C1	No.66
1563頃	by Tavernier	『ダビデの物語 Historie van David』 ³⁷⁾	civilité ³⁸⁾	記載なし	
1564	by Plantin	『狐ライナールト Reynaert de Vos』	civilité p. rom.	A1	No.73
1564	by Plantin	『十二族長の遺訓』 ³⁹⁾	civilité p. rom.	A1	No.74
1566	by Plantin	『十二族長の遺訓』 ⁴⁰⁾	civilité p. rom.	記載なし	
1569	by Plantin	『十二族長の遺訓』 ⁴¹⁾	不明	記載なし	
1566	Plantin	蘭語仏語対照『狐ライナールト』 Reynaert de Vos ⁴²⁾	Flemish text in Gothic, French text in Roman	記載なし	

表の上段右にある「種別」および「番号」は、シヴィリテ書体を本格的に論じた Carter/Vervliet 1966 に用いられたシヴィリテ書体の種別と、1557年以降この書体をもって刊行された書籍に年代順に割り当てられた番号を指す。A系列はグランジョンがデザインした各種のシヴィリテ書体を指し、計8種類ある⁴³⁾。C系列は当時やはりアントウェルペンで活動した活字鋳造師アメート・タフェルニエ Ameet Tavernier が鋳造したシヴィリテ書体をいい、大きさの異なる2種類（C1およびC2）がある。ペーター・ファン・ケールベルヘンの印刷者の項目に by Plantin あるいは by Tavernier とあるのは、ケールベルヘンが同僚の印刷業者に活字を組んでもらい、本の製作を依頼したという意味で、その場合ケールベルヘンは印刷業者と言うよりも発行者あるいは版元というのがふさわしい。1562年から1563年にかけてプランティンは異教書を出版したという嫌疑を掛けられて、印刷機材を

別の印刷業者ジャン・ルー Jean Loe に売却してパリに逃れた。その後 1563 年末にアントウェルペンに戻り、機材を買い戻している。したがって、ケールベルヘンがタフェルニエにガブリエル・メウリーア Gabriel Meurier の英語ないし仏語学習者のための『親密なコミュニケーション Communications familiares』および『ダビデの物語 Historie van David』の製作を依頼した時期は、ちょうどプランティンがアントウェルペンにいなかった時期と重なる。プランティンは印刷機材を買い戻した後にケールベルヘンのために『狐ライナールト』を印刷したのであり、これはシヴィリテ書体による作品の全体からして見れば 73 番目の作品で、シヴィリテ書体 A1 を用いたものである。ただしその後にはじめて明るみに出た作品もあるので、Carter/Vervliet 1966 には若干の遺漏があり、本論文ではこれを補足して表を作成した。1566 年のプランティン版の蘭語仏語対照『狐ライナールト』はシヴィリテ書体を用いていないので、当然 Carter/Vervliet 1966 には記載されていない。

3. 『十二族長の遺訓』と『ダビデの物語』、ガブリエル・メウリーア、民衆本『狐ライナールト』

上記の一覧表でやはり注目に値するのは、『十二族長の遺訓 Testamenten der XII patriarchen』が同じケールベルヘンとプランティンという版元と印刷業者の協働によって四版を重ねていることである。『十二族長の遺訓』は旧約聖書外典の一つで、リンカン司教のロベルトゥス・グロッセステ Robertus Grosseteste が 13 世紀にヘブライ語からラテン語に翻訳し、その後各国語に翻訳されたものだ⁴⁴⁾。ヤコブの 12 人の子らが、死の床で子孫に遺言を残す形式で語られ、特徴的なのは、レビとナフタリの未来のことを指し示す預言を別にすると、それぞれ族長が自分の行いを引き合いに、道徳的な教訓を垂れることである⁴⁵⁾。たとえば美徳や悪徳、不貞、嫉み、傲慢、吝嗇、売春、素朴さ、思いやり、憐れみ、義、純潔、愛などについて語られる⁴⁶⁾。1564 年版の表紙には「十二族長、ヤコブの子らの遺訓、各自がその死に際していかに子孫に神への畏れを教え、敬虔な生活を訓告したか。とても慰めになり、真の敬虔なる生活にひじょうに有益で、そしてここに彼らの父であるヤコブの遺訓を付加した。」とあり⁴⁷⁾、また表紙下には「アントヴェルペンのペーター・ファン・ケールベルヘンのもとで販売中。住所はグルデン・クライス内⁴⁸⁾の聖母教会墓地となり」ともあって⁴⁹⁾、その体裁は民衆本『狐ライナールト』と同じである。『十二族長の遺訓』にも、生徒向けの教科書として、子供に読みやすいようにシヴィリテ書体が使用された。こうした教訓つきの物語は、当時は学校の教科書として非常に重視されていたのが分かる。たとえばペーター・ヘインス Peeter Heyns が 1556 年に開校したほとんど女子生徒だけの学校においても、教科書として用いられていた⁵⁰⁾。ケールベルヘンによる『十二族長の遺訓』が 1561 年および 1564 年、1566 年、1569 年と四版を数えていることは、当時この作品がアントウェルペンにおいていかに好評であったかを物語る。さらに好評であったのはアントウェルペンのみならず、他の諸都市でも同様で、たとえば低地諸州で刊行されたか、それ以外の地域で刊行されたオランダ語による同書は 1540 年から 1597 年までに 25 版を重ねた。低地諸州で刊行されたもののうち 3 版はフランス語による⁵¹⁾。オランダ語で印刷された最初のもは、版元および刊行地の記載がない 1541 年版で、その後カンペンのペーター・I・ウォールネルセン Peter Warnerssen による 1543 年版および 1544 年版、ヘントのヨース・ラムブレヒト

Joos Lambrecht による 1551 年版および 1552 年版、1553 年版、同じアントウェルペンではヤン・ファン・ウェアスベルヘン Jan van Waesberghen による 1551 年版が出版された⁵²⁾。

他方『ダビデの物語』は、エミール・ファン・フルク Emile van Heurck によれば、2 世紀半以上にわたって学校で使用されてきた物語で、列王記第一（すなわち今日のサムエル記上—論者注）の 16 章から 31 章、列王記第二（サムエル記下）の第 1 章から第 24 章までを採録しているという⁵³⁾。1750 年頃にマルティヌス・フェルドゥッセンが刊行した『王たる預言者ダビデの物語』の全体名は以下の通りである⁵⁴⁾。「列王記第一および第二より採られた王たる預言者ダビデの物語、その生涯および勝利、奇跡的業績。神学学士またアントウェルペンの聖母教会参事会員フランシスクス・ファン・ティーネンが情熱を傾けて監修して照合したもの。すべての人に大変有益で読むのが楽しい。アントウェルペン、マルティヌス・フェルドゥッセン。1750 年頃。」この中で「照合した」というのは、聖書の文言と照合したという意味であり、聖書からそのまま採録されている。これまでの最古の版と想定されていたのは 1677 年の Godtgaf Verhulst 版であるものの⁵⁵⁾、タフェルニエの印刷した版がすでに 1553 年に存在したことは、書物検閲の記録から判明しており、そのタイトルは Een schoon historie van propheet David 『預言者ダビデの素晴らしい物語』となっている⁵⁶⁾。

ガブリエル・メウリーア Gabriel Meurier は 1513 年頃ベルギーのアヴェンヌ Avennes に生まれ、1598 年頃に死去している⁵⁷⁾。1547 年 6 月 24 日にアントウェルペンの市民となり、16 世紀後半のこの都市において傑出した教育者であったという⁵⁸⁾。おもに蘭語仏語対照の辞書や文法書、会話練習帳などを多数著していた⁵⁹⁾ 教育者であった。したがって 1563 年にケールベルヘンが刊行した『親しいコミュニケーション *Communications familiers*』もそのタイトルにある通り、フランス語を学習したい英国民に向けての会話練習帳に他ならない。当時アントウェルペンにはイギリス商人も多く、その子弟向けの本だと考えてよい。あるいはフランス語と英語を同時に学習したい生徒用の本だとも考えられる。注目すべきなのは、先述したペーター・ヘインスの学校では、フランス語学習者のためにメウリーアが著述した教材が数多く使用され、フランス語学習はほとんどメウリーアの教材に頼っていた点である。ヘインスが帳簿に書きとめていた *Conjugations* と称する 32 頁からなる小冊子は、フランス語動詞の活用本であり、1562 年にプランティンがメウリーアに 425 冊納入したことが判明している⁶⁰⁾。また、帳簿に *Magazin de voc.* とあるのは、やはりメウリーアが著したフランス語の単語帳 *Magazin de Planté, de Vocables Bien Propres et Dvisants & tout qualité de gens, reduit par Chapitres. En François & Flameng par Gabriel Meurier* を指すのはほとんど確実であるという⁶¹⁾。その他、メウリーアのフランス語の会話本あるいは会話練習帳が四冊が教材として使用されている⁶²⁾。こうして見ると、ペーター・ヘインスとメウリーアは同じ教育者として親しい間柄であったことが判明する。また、1557 年から 1562 年にかけてメウリーアの初期の著作はプランティンが活字を組んでいるので⁶³⁾、両者の関係も親しいものであった。上表に掲載されている教育者や著述家、印刷業者などは本の製作および販売、使用に関して一つの緊密なネットワークを形成していたのが判明する。ペーター・ファン・ケールベルヘン自身もこのネットワークの一員であり、民衆本『狐ライナールト』もここに挙げられた諸作品と同じ系譜の中にあると言えよう。同様にシヴィリテ書体を用いている事実から、主として生徒向けの物語であったと判断できる。それは『狐ライナールト』の以下に挙げる序文からも明らかである。

「読者のみなさんへ⁶⁴⁾

善良な読者のみなさん、本書にばかばかしい題名がついているからといって、内容もばかばかしくて無視すべきだとは考えないでください。とにかく頭を使いながら読んで、各々の事件がどんな結末になるのかが書かれているのを見れば、貴方はそこに偉大な教訓と戒めを見出すでしょう。第一に目にするのは、君主とその宮廷の階級です。二番目は一般大衆の階級です。三番目は、いかさま師の手口と振る舞いで、嘘や甘言を弄してどんな手口を使ってどのように人々を騙すことができるのか。また、連中の言うことをいかに信じてはならないか。最後に、精神に付随する理性と知恵があらゆる困難に打ち勝ち、それを上回るのだと教えています。君主にとって、欲張りよりも知恵者が宮廷にいる方が有益であることも。君主の宮廷は、賢く熟達した人たちの助言がなければ決して繁栄できないことに留意してください。本書に出てくるだろう動物名のなかには、人間のさまざまな階級も含意されています。第一に、聖職者の階級を穴熊に喩えています。そして密かに彼らの貪欲さと邪淫が攻撃されています。そのつぎに貴族階級があって、そのなかには何人かの実力者がいます。王様や領主、伯爵といった人たちです。この人たちを喩えているのが狼や熊、オオヤマネコ、豹です。その他の人たちはこれより弱小で序列の低い人たちで、本書の著者はこれらの人々を狐や雌猿、犬、雄猫などの動物で表しました。最後に労働者の階級も目にするでしょう。これらの人々は、馬や雄牛、ロバなどの役畜に擬えられています。また、楽しみながら学ぶ以上に上手に学べることはないでしょうから、わたしたちは喜んで本書に取りかかり、これを低地ドイツ語⁶⁵⁾で印刷してもらいました。こうした称賛すべき著者たちに喜びを見いだす方々に満足していただけるようにと。わたしたちにとって、もっばらこうした方々に気に入っていただければ幸いです。これをもってあとは神様に任せて、それでは善良なライナールトがわたしたちに語りかけることをお聞きください。」

すでに冒頭で「とにかく頭を使いながら読んで、各々の事件がどんな結末になるのかが書かれているのを見れば、貴方はそこに偉大な教訓と戒めを見出すでしょう。」と記されている通り、この物語が教訓話あるいは訓戒の話として構想されているのがわかる。本論がすでに『十二族長の遺訓』で確認しておいたことと同じである。次いで人間の階級が言挙げされ、三番目に「いかさま師の手口と振る舞いで、嘘や甘言を弄してどんな手口を使ってどのように人々を騙すことができるのか。また、連中の言うことをいかに信じてはならないか。」とあり、いかさま師の詐欺からいかに逃れるかを学習できると強調する。そして「楽しみながら学ぶ以上に上手に学べることはないでしょうから、わたしたちは喜んで本書に取りかかり、これを低地ドイツ語で印刷してもらいました。」とあるように、学ぶための物語であると明記されている。ただし、学習するのは前述したメウリーアの場合のフランス語などの外国語ではなく、世俗の知恵である。まさにこの点に『狐ライナールト』の特徴があると考えられる。なるほどこの物語はペーター・ヘインスの学校で教材として使用されたとの記録はなく、また他の学校で使用されたとの証拠はこれまで発見されていない。しかしながら、本論でこれまで考察したように、この物語が若者向けの教訓話であったのは疑いない。

4. 結語

以上、民衆本『狐ライナールト』は、16世紀後半のアントウェルペンにおいて新たな役割を付与されて出現した。形式的には、1479年に成立した散文版『狐ライナールト物語』および1487年～1490年に成立した韻文版『狐ライナールト』を継承しながらも、シヴィリテ書体の採用によって若者向けの教訓話という新たな特徴が付与された。当時アントウェルペンに存在した教育者や著述家、版元、印刷業者というネットワークがそれを可能にしたと言えよう。

民衆本『狐ライナールト』は、成立した2年後の1566年に今度はプランティン自身が印刷した蘭語仏語対照『狐ライナールト』Reynaert de Vos/Reynier le Renard となって現れる。文面はほとんど変わらないものの、序文には、「また、楽しみながら学ぶ以上に上手に学べることはないでしょうから、(わたしたちがその対象に選んだ)生徒たちにとってフランス語を学ぶときにいっそう有利になるように、この仕事に喜んで着手してこれをフランス語と低地ドイツ語にしてもらった。」とあり⁶⁶⁾、明白に生徒たちのフランス語学習に資するためと記載されている。これは民衆本『狐ライナールト』とは異なる新たな役割の付与であり、再び物語の性格が変化したことを物語る。さらにプランティンはこの蘭語仏語対照『狐ライナールト』の独占印刷権および独占販売権を1565年11月12日に得ており⁶⁷⁾、そのせいでケールベルヘンは、しばしば重版した『十二族長の遺訓』とは異なり、自分の『狐ライナールト』を一度しか販売できなかった。元々その『狐ライナールト』はプランティンに印刷を依頼したもので、使用されたシヴィリテ書体もプランティンの所有で、自分では所有していなかったのもやむを得なかった。

以上見た通り、民衆本『狐ライナールト』は、印刷出版業がひじょうに盛行した16世紀後半のアントウェルペンにおいて独自の性格を持った物語に改編された。この物語が若者向けの教訓話として有用であること、また売れる見込みをそこに見出したのはペーター・ファン・ケールベルヘンの優れた着眼であった。1564年に刊行されたこの『狐ライナールト』が端緒となり、ほぼそのままの形でその後19世紀まで伝承が続くことを考えれば、狐ライナールトを巡る伝承は、ペーター・ファン・ケールベルヘンに負うところがすこぶる大きい。これまでの研究で行われたような、先行する作品群との比較研究によって、失われた『ケンブリッジ断片』を再建するという企ては、結局のところ証明できるという性質のものではない。それよりも、民衆本『狐ライナールト』の独自性や自立性、16世紀後半のアントウェルペンにおける出版業界において関連する諸作品との関係を明らかにするのが重要である⁶⁸⁾。

注

- 1) HPT: II : 485. 指摘は Naar de letter 1972:39 注1による。また、『クレマン断片』の記述がある Campbell 1884:25 を参照されたい。
- 2) 本論で論じる民衆本『狐ライナールト』には失われた原本がある可能性があるものの、詳細は別稿に譲りたい。
- 3) Blake 1965:63-64.
- 4) Prien 1887:XXIV – XXXIV.
- 5) 檜枝 2016:73-76 参照。
- 6) Naar de letter 1972:24-28.
- 7) Naar de letter 1972:75 の系図に加筆また修正して作成した。
- 8) Naar de letter 1972:70-71. また Verzandvoort/Wackers 1988:15-16 参照。

- 9) 檜枝 2018:3-10 参照。
- 10) 檜枝 2012:235-243 参照。
- 11) Goossens 1983:128 による補足を [] 内に示した。ただし第 20 章であるのかは不明。Goossens は現存する第 22 章から逆算して②の箇所にもう一つ見出しを推定して第 20 章だとしたのだろうが、②の部分は欠落部分であるので見出しがあったか不明だからである。
- 12) 本来ならば第 22 章となるべきところで、数字が飛んでいる。
- 13) ふつうこの箇所はドイツの研究に倣って注釈 Glosse と称されているものの、ここでは民衆本に合わせて教訓 Moraal とする。
- 14) 檜枝 2018:3、10。
- 15) 汚れのせいで読み取れず、Breul 1927:3 では空欄に、Priem 1882:10 では oeck としている。
- 16) 略記された n (ghecropē) を表記した場合はイタリック体で表記した。
- 17) Rijns 2006:88 第 2 列。
- 18) 檜枝 2018:9、13。
- 19) たとえば Foerste 1960 を参照。
- 20) Rouzet 1975:108。また Verheyden 1910:207、217 参照。
- 21) Verheyden 1910:205。
- 22) Rombouts/van Lerijs 1872:1:202。
- 23) Rouzet 1975:111。
- 24) Verheyden 1907:82。
- 25) Belgica Typographica 1541 – 1600: IV :421。
- 26) Verheyden 1907:82。
- 27) 原文は 2 通とも同じで以下の通り。Ghedruyck Thantwerpen by Cornelis vanden Kerckhoue ende Peeter van Keerberghen. (Verheyden 1907:82)
- 28) Verheyden 1907:82。
- 29) 一つは Cleyn Kerkhoff に、もう一つは Cammerstraat にあったという (Goris 1924:85)。
- 30) Belgica Typographica 1541 – 1600: IV :421-422。最新の研究では 52 作品と若干増加している (Pettegree/Walsby 2011:2:1423)。ただしそれには図表に記載した 1561 年版の『十二族長の遺訓』(Pettegree/Walsby 2011:1:200, No.4432) が抜けており、これを加えると 53 作品となる。ペーター・ファン・ケールベルヘンは 1570 年 5 月 9 日に死去した。事業はまず未亡人が、その後息子のヤン・ファン・ケールベルヘン (Jan van Keerberghen) が継承した。
- 31) Belgica Typographica 1541 – 1600: IV :421 には、1561 年から 1566 年までに出版されたケールベルヘンの 13 作品が挙げられている。表に記載した作品と重複しているのは『狐ライナールト』および 1564 年版また 1566 年版『12 族長の遺訓』の 3 作品で、1561 年版は刊行年無しの分類となっている。
- 32) ロベール・グランジョンとそのシヴィリテ書体、またこれらの作品については檜枝 2016:75-76 も参照されたい。
- 33) 1561 年の刊行年は Pettegree/Walsby 2011:1:200, No.4432 の記述に依った。Glorieux/Op de Beeck 1994:421 では刊行年が不明な (s.a.) 作品として記載されている。
- 34) シヴィリテ書体、一部イタリック書体が用いられていることを示す (civilité parts in italic)。同様に civilité p. rom. はシヴィリテ書体、一部ローマン書体の略。The Plantin Press (1555 – 1589) の表記に従った。
- 35) Communications familiaeres のタイトル全文は以下の通りである。Communications familiaeres non moins propres que utiles à la nation angloise desirouse et diseteuse du langage françois. Familiare communications verrie proffyttable to the Inglishe nation desirous and nedinge the Frenche language. Antwerpen, chez Peeter van Keerberghen, 1563. Pettegree/Walsby 2011:2:924, No.21226 参照。
- 36) 作品全体がシヴィリテ書体によるのか、一部別の書体を用いているのか不明。
- 37) Resoort 1988:220 による。Resoort によると、当該作品は個人所蔵によるもので最近まで知られていなかったという。

- 38) 作品全体がシヴィリテ書体によるのか、一部は別の書体を用いているのか不明。
 39) The Plantin Press (1555 — 1589): I :386-387 の記述に依った。
 40) The Plantin Press (1555 — 1589): I :387-388.
 41) Pettegree/Walsby 2011:1:201, No.4436. 当該箇所で使用された書体が明記されていない。
 42) The Plantin Press (1555 — 1589): V :1992-1993.
 43) 参考までにグランジョンがデザインした8個のシヴィリテ書体 (A1 ~ A8) とその納入先、またタフェルニエのシヴィリテ書体の特徴を挙げておく (Carter/Vervliet 1966:88 から作成した)。書体名とあるのは各書体の呼称であり、大きさがそれぞれ異なる。MPM はプランティン・モレトゥス博物館蔵、MA はその母型 (Matrix) 番号、ST は文字が凹型に打ち込まれている鋳型 (Strike) の番号を表し、この部分は Inventaris 1960:95-100 より作成した。「20 行の深さ」とは、デッセンダーラインからアッセンダーラインまでの高さ (たとえば ph あるいは gf) を 20 倍にした数値をいう (Vervliet 1968:15-19)。一部の書体名は、次に挙げたプランティンの使用した書体名と必ずしも一致していない。

日付	書体名	鋳造者	20 行の深さ	No.	
1557	Mediane	Granjon	80mm	A1	MPM 165:MA38, MA107
1562 頃	St. Augustin	Granjon	94	A2	MPM 163:MA138
1565	Pré-Courante	Granjon	120	A3	W.Silvius
1566	Dutch St. Augustin	Granjon	96	A4	W. Silvius
1566 頃	Françoise sur la Garamonde	Granjon	65	A7	MPM 167:ST48, MA50
1567	Courante	Granjon	116	A5	MPM161:ST44, MA108
1568	Bastarde	Granjon	116	A6	MPM162:ST45, MA109
1587	De Tournes' Petite Françoise	Granjon	67	A8	Jean de Tournes II at Geneva

アメート・タフェルニエのシヴィリテ書体 (Carter/Vervliet 1966:88)。

日付	書体名	鋳造者	20 行の深さ	No.	
1559	Petite Parangonne (Inventaris 1960:95 では Ascendonica civilité 論者注)	Tavernier	120mm	C1	MPM 159:MA 163
1560	Mediane	Tavernier	80	C2	

参考までにプランティンの使用した書体名とポイントの関係を表にした (Parker/Melis/Vervliet 1960:121、Voet 1972: II :56、Inventaris 1960:8 参照)。

プランティンの書体名	20 行の深さ (mm)	ディドー式ポイント	パイカ式ポイント
Gros Flamand Lettre	1088	144	155
La plus Grande Romaine	478	78	83
Canon d'Espagne	333	44,5	47,5
Gros Canon (Gras Canon)	288	38,2	41
Moyen Canon	228	30,5	32,2
Petit Canon	189	25,5	27,2
Ascendonica	139	18,5	20
Parangonne (Vraie Parangonne, Grosse Parangonne)	132	17,5	18,7
Reale	130	17,3	18,5
Petite Parangonne	122	16,3	17,7
Texte (Vrai Texte, Gros Texte, Gros Romain)	116	15,5	16,6
Nouveau Texte (Petit Texte)	109	14,5	15,5
Augustine (Vraie Augustine, Grosse Augustine)	93	12,5	13,4
Petite Augustine	87	11,5	12,3
Mediane (Cicero)	79	10,5	11,3

Philosophie (Descendiane)	70	9,5	10,3
Garamonde (Petit Romain, Petite Ascendonica, Bourjoise)	65	8,7	9,4
Colineus (Bourjoise)	61	7,9	8,6
Bible (Petit Texte, Breviaire, Gaillarde)	52,5	7	7,6
Coronelle (Mignonne, Grosse Nompaille)	45	6	6,5
Jolie	43	5,6	6,1
Nompaille (Petite Nompaille)	41	5,3	5,8

- 44) The Plantin Press (1555 — 1589): I :384.
- 45) 『新カトリック大事典』第3巻 研究社 2002年 p.179.
- 46) Sabbe 1929:107-108. また『聖書外典偽典』第五巻 旧約偽典Ⅲ「十二族長の遺訓」p.219 -354 参照。
- 47) 原文は以下の通り。スラッシュは改行を表す。DE TESTAMENTEN/DER XII . PPATRIARCHEN, IACOBS/KINDEREN, HOE EEN YEGHELIIC VOOR/sijn eynde, sijn kinderen gheleert, totter vreesen Gode,/ende Godsalignen leven vermaant heeft. Seer trooste-/lijck, ende tot eenen waren Godsalignen leven/gansch dienstelijck. Ende hier is by/gheset het Testament van/Jacob haerlieder/vader.
- 48) 一六世紀当時、アントヴェルペンにあった出版業者や書籍販売業者が居住していた一区画。
- 49) 原文は以下の通り。斜線は改行を表す。Men vintse te cope Tantwerpen, by Peeter van/Keerberghen, woonende op onser Vrouwen/Kerchhof int gulden Cruys.
- 50) Sabbe 1929:10、107-108.
- 51) Pettegree/Walsby 2011:No.4419、4426、4429.
- 52) Pettegree/Walsby 2011:No.4419 ~ 4443 参照。
- 53) Van Heurck 1944:97. また van Heurck 1927:21-25 には、18世紀から19世紀にかけて出版された8版が掲載されている。
- 54) Van Heutck 1944:97注2による。原文は以下の通りである。*De historie Van den Conincklijcken Propheet David, Van zijn leven, Victorien ende wonder wercken, ghenomen uyt het eerste ende tweede Boeck der Koninghen. Neerstelijck oversien ende gheconfereert door den Heer Franciscus van Thienen, Licentiaat in der Godtheyt ende Canoninck van onse Lieve Vrouwe Kercke tot Antwerpen. Alle menschen seer profijtelijck ghenuchelijck om te lesen.* Antwerpen, Martinus Verdussen. Rond 1750.
- 55) Resoort 1988:220 注 152
- 56) van Autenboer 1955:143-145.
- 57) de Groote 1967:285-286.
- 58) Sabbe 1929:76.
- 59) Pettegree/Walsby 2011:2:923-926、No.21218 ~ 21268 を参照されたい。
- 60) Sabbe 1929:70-71.
- 61) Sabbe 1929:72.
- 62) Sabbe 1929:76-84 に記された次の四冊をいう。*La Guirlande des Jeunes filles, en François & Flamen, par Gabriel Meurier. Revüe & de plusieurs belles sentences illustrée par le mesme—Het Cransken der jonghe dochters, in Fransoys ende Duytsch、de Propos puerils, ordinairement usez es écoles françoisez: par le moyen desquelz sera plus aisé que par le passéé, aux Maistres d’enseigner & aux enfans d’apprendre François & Flameng. Kinder Redenen, Fransoys ende Duyts. La Foire des enfants d’Israel, en François et Flamen. Par Gabriel Meurier, Avesnois. Reveu, relimé & par le mesme augmenté. Colloques ou nouvelle invention de propos familiers: non moins utiles que tres necessaires, pour facilement apprendre françois et flameng. Esquels avons observé les punctuations, accens, interrogations, et annotations proprement requises audict langage, ce que par cy devanr (fualte d’avis) rarement a esté fait. Auteur Gabriel Meurier. Tsamencoutinghen, oft nieuwe inventie van ghemeyne redenen: niet min profijtelick dan noottelick, om lichtelick ende correctelick te leeren françois ende*

Nederduytsch.

- 63) Pettegree/Walsby 2011:2:923-924, No.21218 ~ 21221, 21224 を参照されたい。
- 64) 翻訳の原本にはマルティン版を用いた (Martin 1876:5-6)。
- 65) 現代のオランダ語のこと。現在の低地ドイツ語 (原文では *Nederduytsch*) は、ドイツの北部方言を指して用いられるものの、かつてはオランダ語も含めて広い言語域を指して用いられた呼称であった。
- 66) 括弧は原文にある。Ende aengesien men niet beter en soude connen geleeren/dan t'gene dat men met ghenuechten leert/soo hebben wi wel willen desen arbeyt aennemen t'selue te maken in Francoyse ende nederduytsch/op dat de iongers (voor den welcken wijt gedaen hebben) meerder vorderinge hebben om Francoysch te leeren. Et pourtant qu'on ne sçauroit rien mieux aprendre, que cela, que l'on apprend avec ioyuseté, nous auons bien voulu entreprendre ce labeur, de le faire en François & bas Alleman, à fin que les ieunes gens (pour lesquelz nous l'auons fait) ayent d'autant plus grand auantage pour aprendre le François. (Sabbe-Willems 1924:A5)
- 67) Rijns 2006:2. La Majesté Royale a donné priuilege à Christophle Plantin, Imprimeur iuré, de pouuoir luy seul imprimer, ou faire imprimer, vendre, & distribuer ce liure intitulé: *L'histoire de Renier le Renard, en Flameng & François*. (中略) Le XII. Nouembre. L'an M.D.LXV. (中略は論者による。)
- 68) 本研究は JSPS 科研費の助成を受けたものである (基盤研究 C 課題番号 JP16K02578)。

参考文献

- van Autenboer 1955:Autenboer, E. van: Onbekende drukken van volksboeken en andere «duutsche» werken in 1569. in:*Leuvense Bijdragen: Tijdschrift voor germaanse filologie*. 45 (1955) 134-145.
- Belgica Typographica 1541 – 1600. Catalogus librorum impressorum ab anno MDXLI ad annum MDC in regionibus quae nunc Regni Belgarum partes sunt*. Deel I : Elly Cockx-Indestege/Geneviève Glorieux, 1968; Deel II : Geneviève Glorieux, 1980; Deel III : Geneviève Glorieux/Bart Op de Beeck, 1994; Deel IV : Geneviève Glorieux/Bart Op de Beeck, 1994, Nieuwkoop.
- Blake 1965: N. F. Blake, English Versions of Reynard the Fox in the Fifteenth and Sixteenth Centuries. in:*Studies in Philology* 62 (1965) 63-77.
- Breul 1927: Karl Breul, *The Cambridge Reinaert Fragments (Culemann Fragments)*. Cambridge 1927.
- Campbell 1884: M.-F.-A.-G. Campbell, *Annales de la typographie néerlandaise au XV^e siècle*. La Haye 1874, 2^d Supplément. La Haye 1884.
- Carter/Vervliet 1966: Harry Carter/H.D.L. Vervliet, *Civilité Types*. Oxford 1966.
- Foerste 1960:William Foerste, Von Reinaerts Historie zum Reinke de Vos. in:*Münstersche Beiträge zur niederdeutschen Philologie* 1960, 105-146.
- Goossens 1983: Jan Goossens, *Reynaerts Historie – Reynke de Vos*. Gegenüberstellung einer Auswahl aus den niederländischen Fassungen und des niederdeutschen Textes von 1498. (Texte zur Forschung 42) Darmstadt 1983.
- Goris 1924: J.A. Goris, Een proces gevoerd door den stamvader der Verdussen's (1595 ~ 1596). in:*De Gulden Passer* 2 (1924) 83-89.
- de Groote 1967:J. de Groote, De zestiende-eeuwse Antwerpse schoolmeesters. in: *Bijdragen tot de geschiedenis*. 50 (1967) 179-318.
- van Heurck 1927: Emile van Heurck, *Voyage autour de ma Bibliothèque. Livres populaires et livres d'école flamands in ~ 4°*. Anvers 1927.
- van Heurck 1944: Emile van Heurck, *De vlaamsche volksboeken. In het Nederlandsch vertaald door J. Truyts*. Antwerpen 1944.
- 檜枝 2012:『狐の叙事詩』『ライナールト物語』『狐ライナールト物語』檜枝陽一郎編訳・読解 2012年 言叢社
- 檜枝 2016: 檜枝陽一郎「民衆本『狐ライナールト』(H1564)について」『立命館文学』第647号 2016年3月

73-92.

檜枝 2018: 檜枝陽一郎「『ケンブリッジ断片』とヘラルト・レーウ」『立命館文学』第 658 号 2018 年 7 月 1-28.

HPT: Witze en Lotte Hellings, *The Fifteenth-Century Printing Types of The Low Countries*. 2 vols. Amsterdam 1966.

Inventaris 1960: *Inventaris van de Stempels en Matrijzen van het Museum Plantin-Moretus. Inventory of the Plantin-Moretus Museum Punches and Matrices*. Stad Antwerpen 1960.

Martin 1876: Ernst Martin, *Reinaert Willems gedicht van den Vos Reinaerde und die Umbearbeitung und Fortsetzung Reinaerts Historie*. Paderborn 1874.

Naar de letter 1972: *Reinaert de vos. Tentoonstelling (29 sep. 1972 – 28 feb. 1973)* Instituut De Vooy, Utrecht. (Naar de letter No.5) Utrecht 1972.

Parker/Melis/Vervliet 1960: M. Parker/K. Melis/H.D.L. Vervliet, *Typographica Plantiniana, II . Early Inventories of Punches, Matrices, and Moulds, in the Plantin-Moretus Archives*. in: *De Gulden Passer*, 38 (1960) 1-139.

Pettegree/Walsby 2011: Andrew Pettegree/Malcolm Walsby (ed.), *Netherlandish Books. Books Published in the Low Countries and Dutch Books Printed Abroad before 1601*. 2 vols. Leiden/Boston 2011.

The Plantin Press (1555 — 1589): Leon Voet, *The Plantin Press (1555 — 1589). A Bibliography of the Works printed and published by Christopher Plantin at Antwerp and Leiden*. I 1980, V 1982 Amsterdam.

Prien 1887: Friedrich Prien, *Reinke de vos*. Halle 1887.

Resoort 1988: *Een schoone historie van der borchgravinne van Vergi; onderzoek naar de intentie en gebruikssfeer van een zestiende-eeuwse prozaroman*. Hilversum 1988.

Rijns 2006: Hans Rijns, *De gedrukte Nederlandse Reynaerttraditie*. Hilversum 2006.

Rombouts/van Leries 1872: Rombouts P. and T. van Leries, *De liggeren en andere historische archieven der Antwerpsche Sint-Lucasgilde. Les liggeren et autres archives historiques de la gilde anversoise de Saint-Luc*, Antwerp and The Hague, 1872, 2 vols.

<https://ia801403.us.archive.org/2/items/deliggerenenand00lukagoog/deliggerenenand00lukagoog.pdf>

Rouzet 1975: Anne Rouzet, *Dictionnaire des imprimeurs, libraires et éditeurs des XVe et XVIe siècles dans les limites géographiques de la Belgique actuelle*. Nieuwkoop 1975.

Sabbe 1929: Maurits Sabbe, *Peeter Heyns en de Nimfen uit den Lauwerboom. Bijdrage tot de geschiedenis van het schoolwezen in de 16e eeuw*, Uitgave van de Vereeniging der Antwerpsche Bibliophilen. N°. 41. Antwerpen en 's-Gravenhage, 1929.

Sabbe-Willems 1924: *Reynaert de Vos/Reynier le Renard. Herdruk van de Plantijnsche uitgave van 1566 met een voorbericht van Dr. Maurits Sabbe en een inleiding van Mr. L. Willems AZ*. Plantin-Moretus, Antwerpen 1924.

『聖書外典偽典』第五卷 旧約偽典Ⅲ「十二族長の遺訓」1976年 教文館

Verheyden 1907: Prosper Verheyden, Twee onbekende drukkers uit de 16^e eeuw. Joos van den Kerckhove, Gent, Cornelis van den Kerckhove, Antwerpen. in: *Tijdschrift voor boek- en bibliotheekwezen* 5 (1907) 75-82.

Verheyden 1910: Prosper Verheyden, Drukkersoctrooien in de 16^e eeuw. in: *Tijdschrift voor boek- en bibliotheekwezen* 8 (1910) 203-226, 269-298.

Vervliet 1968: H.D.L. Vervliet, *Sixteenth-Century Printing Types of the Low Countries*. Amsterdam 1968.

Voet 1972: Leon Voet, *The Golden Compasses. A History and Evaluation of the Printing and Publishing Activities of the Officina Plantiniana at Antwerp in two volumes. Volume 2. The Management of a Printing and Publishing House in Renaissance and Baroque*. Amsterdam/London/New York 1972.

Verzandvoort/Wackers 1988: *Reynaert den Vos oft Der Dieren Oordeel. Facsimile van het rond 1700 in de drukkerij van Hieronimus Verdussen vervaardigde volksboek*. Verzorgd en van een inleiding voorzien

door Erwin Verzandvoort en Paul Wackers en met een voorwoord van Loek Geeraedts. Antwerpen/
Apeldoorn 1988.

(本学文学部教授)